

パシク修理作業時の事故が後を絶ちません。今一度。正しい作業手順。 る確認し、パンク修理作業時の事故を無くしましょう!

パンク修理可能かどうかの確認

- 溝深さの使用限度を超えたタイヤ
- ② ベルト又はブレーカが露出したタイヤ
- ❸ トレッド以外の部位にコードに達する外傷及びゴム割れのあるタイヤ
- ❷ 次の損傷があるタイヤ
 - □ 修理可能な損傷の範囲を超えたトレッド部のコードに達する外傷 又はゴム割れ
 - □コード切れ又はひきずり
 - □ はく離(セパレーション)
 - □ チューブレスタイヤのインナーライナーの割れ(クラック)
 - □ビード部の損傷
- □油、薬品等によるゴム層の変質

修理可能

左の修理禁止の損傷範囲に該当しないもので、トレッド部の コードに達する貫通傷で、損傷の程度が次の範囲内のタイヤ。

	直 径	個 数	周上間隔
乗用車用・ 小形トラック用 タイヤ	6 _{mm以下}	2個以內	40 cm以上
トラック・ バス用タイヤ	8 _{mm以下}	3個以內	70 cm以上

直径3mm以下の釘穴又は類似の貫通傷はこの限りでありません。

修理可能なタイヤであっても 引きずり痕の有無を必ず確認!

- ▶ 必ずタイヤをリムから外して行うこと。
- ▶ 特に偏平タイヤサイズは引きずり痕が確認しづらい場合があるので注意

引きずり痕が確認されたタイヤは 絶対に再使用しないでください!

タイヤ内面に黒い擦れ跡、 シワ、亀裂がある。

タイヤ外面にシワや路面等

との擦れた跡がある。







引きずり痕が確認できない場合でも、タイヤの コードが疲労している場合があります。

■パンク修理作業に伴う破裂事故



場合は、修理しないでください

修理後は、下記に従って十分注意 して空気充てんを行ってください。

パンク修理に伴う 空気充てん作業時の注意点

(2012-2016年)

安全囲い等の使用

圧力調節弁の使用

ビードシーティング圧 300kPa の遵守※1

※1 TB, LT, PCの場合 コア無し充てんの禁止

空気充てん後 5分以上、 安全囲い内で破裂しないことを 確認してから車両に取付けること!

> できるだけヘルメットを着用 すること※2

> > ※2 TBタイヤの空気充てん作業時





パンク修理後の使用方法

フロント以外に装着する

100km/h 以下で走行する

パンク修理を行ったタイヤは、パンク走行した際の コード疲労による局部的な強度低下等の可能性が あるため、上記の2つを必ず守ってください。



